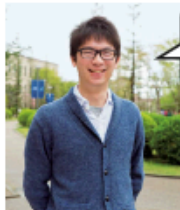


世界のどんな舞台に立つ

関西学院大学理工学部には、世界を舞台に活動することのできるチャンスがあります。その活動を支えているのが特色ある



理工学部の英語授業が国際学会で役立ちました

小笠 航さん

関西学院大学理工学部人間システム工学科3年生。2013年には、理工学専攻7人で「アクティブラーニンググループ・磯崎堂（からくりどう）」を結成し、神戸三田キャンパスでプロジェクトマッピングを実施。

アメリカ大手半導体製造メーカー主催の学会「インターナショナルカンファレンス2013」で、計算機を使った数学教育の方法論を、関西学院高等部時代に所属していた数理学部での成果として発表しました。発表ではとても緊張しましたが、理工学部の英語授業がとても役立ちました。1～2年次にコミュニケーション、ライティング、リーディングを学びますが、それぞれプレゼンテーション、英語論文執筆、英語文献調査に活かすと実感しています。今後、大学では人間とコンピュータのインタラクションを深めるアプリケーションの研究を進めたいと考えています。様々な課外活動の機会もありますので、これから入学する方には大学の内外で活躍してほしいと思います。

英語授業で学んだ討論を留学先の日常でも活用

金 尚洛さん

英国インペリアルカレッジロンドン大学院修士課程で数理ファイナンスを専攻。関西学院大学理工学部数理科学科在学中にはカナダのマギル大学に約9カ月間、留学。2013年3月に理工学部を卒業。

理工学部在学中、グローバルな視野をもち、英語が堪能に話せるようになることを目標にカナダのマギル大学に交換学生として留学しました。関学の交換留学用の奨学金制度は大変ありがたかったです。理工学部での英語授業は、海外でさかんな討論の仕方なども学べたため、留学先の生活でも役に立っています。卒業後はイギリスのインペリアルカレッジロンドン大学院に入学。今後、企業に3カ月間インターンをしながら分位点分析(quantile analysis)という分野で修士論文を書く予定です。修了後は投資銀行などで、数学を使った職に就きたいと考えています。



充実のカリキュラム 理工学部の英語教育

関西学院大学理工学部は、理系の英語教育に力を入れています。基礎づくりに力を入れる1～2年次には「リーディング」「ライティング」「コミュニケーション」の3科目を学科別クラスで合わせて週3回学びます。ネイティブ教員との授業での対話などで「度胸」も付きます。これらのカリキュラムは、各教員が個性を活かしながらも、教員同士の密な連携によって、どのクラスでも同じ量と質を学べる内容。3年次には理工系の専門性をさらに意識した専門選択科目「科学技術英語」や、夏休みに関西学院千刈キャンパスで5日間にわたって行う英語集中合宿「科学技術英語実習」があります。また4年次の卒業研究では英語文献を読みこなし、中には国際学会で英語で研究発表をすることもあります。自分の研究の世界を舞台に堂々と伝えられるようになります。

でも通用する人間になる

英語教育。文部科学省からも評価を受けた充実のカリキュラムで、学生たちを世界で真に通用する人材へと育て上げています。

Good Practice

文部科学省のプログラムにも 採択されました

理工学部の英語教育は、文部科学省2005年度「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に「理系のためにデザインした英語教育システム」として採択されました。このプログラムは、特色ある優れた大学教育の取り組みを選定し、広く社会に情報提供するとともに財政支援を行うもの。理系学生の総合的コミュニケーション能力を高めるものとして評価されています。



「科学技術英語」(3年次)の授業。理系の学生のための独自の英語教育プログラムが用意されている。

教員自身が作る教材で 授業のねらいとマッチング

教科書に合わせた授業をするのではなく、授業のねらいに合わせた教科書を使う。そうした考えのもと、理工学部の英語授業では、教員たちが執筆・作成をした教科書やサブテキストを使用しています。教科書は、環境問題など理系分野での課題解決力を養うテーマが充実。また「英語ライティング」のサブテキスト[E-mail writing skills: Beginner-level]では、授業だけでなく実際の英文メールでのコミュニケーションにも学生たちに役立てられています。

